

## 第6回 市立芦別病院のあり方検討委員会 会議記録

と き 令和2年1月24日（金）午後5時30分  
ところ 市立芦別病院 2階講義室

### ○出席者

・委員

（学識経験者）

**佐古**名寄市立大学学長、**西村**北海学園大学経済学部地域経済学科教授

（芦別市医師会から推薦された者）

**橋本**芦別市医師会会長、**野口**芦別市医師会理事

（市長が指名する者）

**川邊**芦別慈恵園施設長、**竹原**芦別市国民健康保険運営協議会会長

・オブザーバー

**稲場**芦別市副市長、**津幡**芦別市総務部長、

**畠山**芦別市市民福祉部長、**細川**市立芦別病院院長

### ○会議録

#### 1 開会

##### 事務部長

それでは、若干、時間が早いようですが皆さんお集まりですので、委員会を始めたいと思います。本日は、大変お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。第6回の「市立芦別病院のあり方検討委員会」と今回で最終となります。本日は答申書の作成となりますので、よろしく願いいたします。

なお、この後は、佐古委員長からご挨拶をいただきまして、その後、引き続き佐古委員長の進行で議事を進行していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

#### 2 委員長あいさつ

##### 佐古委員長

皆さんお晩でございます。これまで5回の委員会を重ね、答申書を提出できるところまで来ましたこと、委員の皆様方のご協力に感謝申し上げます。

この後、答申の内容について事務局から説明し、皆様方からご意見をいただきますが、現時点においては、現状を打開するために、それなりの答申になったものと考えています。ただ、取り巻く環境の変化が激しいので、この答申でいつまで行けるのか？という点については、多少疑問はありますが、今回の答申で終わりではなく、不断の見直しや改善を病院職員の皆さんにはお願いしたいと思います。

### 3 報告事項

#### 佐古委員長

それでは、議事に入ります。3 報告事項について事務局から何かありますか？  
(事務局：ありません。)

### 4 協議事項

#### 佐古委員長

4 協議事項に入ります。(1) 市立芦別病院のあり方についての答申(案)についてですが、この答申案については、前回の委員会後に皆様に残っていただき、ご意見をいただいたものをまとめて事務局の方で整理しましたので、その経過も含めて事務局から説明をお願いします。

#### 事務課長

(答申(案)、当日配付資料1、2及び3に基づき説明)

#### 佐古委員長

どうもありがとうございます。それでは、項目に沿って進めて参ります。

まず、1の「はじめに」については、各委員からの異論がありませんでしたが、提案どおりでよろしいですか？(なしとの声あり。)

次に、2の「市立芦別病院の現状と課題」についても、これまでの委員会で示されている資料等を整理していて、細かな数字はチェックしていませんが、事務局でしていただいていますので、よろしいでしょうか？(なしとの声あり。)

次に、3の「市立芦別病院のあり方」の(1)「病床規模」について、修正案が出ていますが、いかがでしょうか？

これまでの議論の内容をもう少し詳しく記載していただいた内容となっていると思いますが、いかがでしょうか？今までの議論と特に異なったものではないと思います。

答申での最終病床数は99床ですが、何かご意見がありますか？

#### 委 員

私は、この答申が出て、どのような意見や反論が出るかと考えた時に、何故もう少し削減しないのか？との意見が出ることも考えられることから、状況が不透明であるとの表現では分かりづらく、理由を明記した方が良いと考えました。

#### 佐古委員長

今までも議論していましたが、許可病床数の返上はいつでもできます。しかし、一度返上すると増やすのは100%と言っていくらい不可能だと思いますので、少し慎重に状況を把握し、先を見据えながら進めていくことが、この委員会の考えであると

ということで、よろしいでしょうか？（なしとの声あり。）

次に、(2)「経営形態」について、ここは少し加筆されていて、いろいろな経営形態について議論してきましたが、結論としては全部適用とのこと。将来的にこのスキームで、この先10年いけるか？やはり、人口減少や周辺の状態を見ると将来的には何らかの対応を迫られることも想定され、その時に、この委員会で、その先をどの程度想定していたか？ということも問われますので、いろいろな状況変化に応じたことも検討して、現状ではこの答申がベストの内容になっているのではないかと考えていますが、いかがでしょうか？（良いとの声あり。）

追加の発言があればお願いします。

## 委 員

民営化や指定管理者への移行はしないのか？との意見も出るのかと思いますので、あくまでも公立病院として改革をしていくことを目指すと述べた方が良いと思います。それが、市内の医療を守るだけではなく、中空知全体としてみた時に、公立病院が各自治体にあって、これらの将来的な経営統合を考えていかなければならない時期がやってくると思いますので、私見も入りますが、そうすると民営化してしまうよりは公立として協議ができるあり方の方が良いとの考えです。

総務省の経営アドバイザーからのお話もありましたが、独法にした方がより意思決定や改革もスピーディーに進められるご助言もありましたので、将来展望として少し触れておいた方が良いとの考えです。

## 佐古委員長

広尾町立国保病院の例もあり、詳しくは承知していませんが上手くいっているらしく、診療科が増え、整形外科の診療日数も増えました。今までも町民のニーズはあったものの医師が確保できず、期待に応えられませんでした。帯広の大きな民間の北斗病院がバックとなり、医師も派遣されています。しっかりしたバックがあると、独立行政法人も有効になると思いますが、ただ単に、法人化したからといって上手くいくものではありません。いかがですか？非常に良い内容であると思います。

次に、(3)「診療体制」について、ア「各科外来について」、イ「人工透析について」は、このとおりでよろしいでしょうか？（良いとの声あり。）

次に、(4)「その他」のア「24時間訪問看護」、イ「地域医療連携室の強化」、ウ「医事部門の強化」は、特に修正点はありませんが、よろしいですか？

## 委 員

先ほどの、イ「人工透析について」で、さらに患者数が増加する場合には、早急に体制を整えて2クール化を図ることが必要であります。今の透析部門のドクターの数は、実際、限られた先生が行われているのですか？ドクターへの負担は問題ないのですか？

## 事務課長

循環器科だけではなく内科の先生方もサポートしています。

現場からは、月曜日から金曜日は医師がいますが、土曜日は出張医対応で、透析には精通していない医師もいて、循環器の医師以外の日は完全な体制となっていないため、そこは問題だと考えています。

## 佐古委員長

今、土曜日の対応は？

## 事務課長

土曜日は、午前中だけです。

## 佐古委員長

細川院長（オブザーバー）のご意見をお聞きしたいと思いますが、いかがですか？

## 細川オブザーバー

土曜日の午前・午後は厳しいと思います。火曜日と木曜日は通常勤務ですので、午前・午後の対応は可能であると思います。

## 佐古委員長

土曜日の午後は少し？土曜日は半日と分かるような表現が良いのではないですか。

## 事務課長

先程の説明の中では完全とっていますが、実際の本文の中には完全という言葉が入っていませんで、2クール化を図ることも必要と表現していて、必ずしも土曜日を含めているものではありません。

## 佐古委員長

しかし、誤解を受ける可能性がありますので、最初から全日を外し2クール化した方が良いでしょう。

したがって、現在、行われていない火曜日・木曜日も2クール化との表現で、どうでしょうか？土曜日は、はずした方が良いでしょうので、火曜日・木曜日を含めた2クール化を図ることも必要として、2クール化は火曜日・木曜日に限定する。

土曜日も入れると、スタッフに負担がかかるので、修正をお願いします。

次は、4「附帯意見」(1)「将来を見据えた検討について」修正案がありますが、いかがでしょうか？中身は、不断に見直しを図ってくださるとの適切な表見だと思います。

## 委 員

周辺の環境や人口動態を注視し、適時見直すことは必要だと思います。芦別を含めた中空知を考えると、人口動態は入れた方が良いでしょう。

## 佐古委員長

入れるとしたら、修正案の下から3行目からで、「市立芦別病院の内部状況や人口動態などの外部環境の変化…」でどうですか？

## 事務課長

「市立芦別病院の内部状況や人口動態などの外部環境…」でどうでしょうか？

## 佐古委員長

ほかに、いかがでしょうか？

## 委 員

外部環境をやめて、「内部状況、周辺環境や人口動態の変化に応じて…」の表現で良いかと思います。

## 佐古委員長

次に、(2)「診療所化について」でどうでしょうか？

## 事務課長

病床規模の修正案の中で、診療所化も含めて検討したとの記述があることから、いらないのではとのご意見でしたが、ここでは、診療所化について詳しく書かれているので、残した方が良いでしょうと考えています。

最後のところに、「本委員会としては、あり方の検討の選択肢として「診療所化」は除外した。」としていて、前段では、診療所化を含めて検討したとの矛盾に疑問を持ちましたが、全体としては矛盾していないとされていて、検討した結果、除外したとの表現であれば両方が生きるとかと思いました。

## 委 員

丁寧に書かれているということですので、当然、病床規模を99床にすることは診療所化にはならないことになりますが、どうして？という疑問に対して丁寧に書かれているので、あっても問題はないと思います。

## 佐古委員長

少し、重複する感じがします。修正案の病床規模のところ、この中で診療所化を除外したことを明確に謳えば、それで、良いのかと思いますが、いかがでしょうか？

## 委員

事務局としては、疑問に持たれる方などを想定してのことでしょうか？

## 事務課長

そうです。やはり、診療所の定義が理解されていないことがあり、病床が縮小して小さくなれば診療所？と。病院と診療所の区別がつかず、言葉として漠然と病床が少ないと診療所とされていますので、注意書きで解説する方法もありますが、明確にした方がよいとの考えです。

## 委員

最初は不要かと思いましたが、説明を聞いて、そのような意図があるのであればとも思います。少し、分かりづらいのではと思ったのが、「現在、月平均70名程度が入院していること踏まえると現実的ではない。」であれば良いのですが、「また、市内の医療資源が乏しい中、更に減少することも予想されるため、」の部分に対して、であるならば、早く診療所にしてしまう方法もあるなど、逆に混乱させるのであれば、「また～ため、」までは、削除しても良いのではないかと思います。

当然、今後のことは、書かれているとおりでありますが、記述としてはいらぬものと考えます。

## 事務課長

「また～このこと」までを削除します。

## 佐古委員長

「月平均70名程度入院していることを踏まえると」と繋げることでよろしいでしょうか？（良いとの声あり。）

最後は、(3)「中空知医療圏における再編・統合について」いかがでしょうか？

現行のそれぞれの自治体で、自治体病院を維持することが困難となるので、早い時期から中空知医療圏での再編・統合を議論する必要があることを詳しく、「それゆえ」以降を加えます。

## 委員

議論するだけでは、少し弱いと考えました。出来るだけ速やかに議論を開始すべきですが、それぞれの自治体同士だけでは、中々進まないと思いますので、市長に対する委員会の答申としては、道や国に対しても調整の役割を果たすよう要請すべきとの書き方であれば、許容範囲かと考えます。

## 佐古委員長

以上、いかがでしょうか？これで、よろしいでしょうか？（なしとの声あり。）

大幅な修正はないので、明日、間に合いますね？

**事務課長**

間に合います。

**佐古委員長**

全体を通して、何かありませんか？

**委 員**

病床規模の修正案のところに、そのまま踏襲した形で「現状の病床利用率を踏まえて」との記述がありますが、実は、現状と課題のところに病床稼働率が書かれていないので、できれば事務的な修正でも構わないのであれば、明記した方が良いのではないかと思います。いかがでしょうか？

**佐古委員長**

延べ患者数は4ページに表がありますね。稼働病床数が減っていますので病床利用率も下がっているでしょうが。

**事務課長**

許可病床数と稼働病床数がある中で、許可病床数を返上しないままでいると、必ず病床利用率は下がります。そこを稼働病床率で見るとか？で見方が変わるので思ったような数字とならないと思います。

**委 員**

現状の病床稼働率を考える、「踏まえる」が無い方が、書いてあることで疑問に思われる？気になってしまう？あまり、本質的な問題ではないのかな？と思いますので、99床の結論に関して。

**佐古委員長**

ですから、例えば、1日入院患者数に直せば率ではなく、70人となれば19人では無理となる表現の方が良いのではないかと思います。

**事務課長**

そうすると、例えば、1日平均入院患者数、1日平均外来患者数の欄を設ければ良いかと思います。

明日までに間に合わなければ、差し替えさせていただきます。

## 佐古委員長

後は、何かありませんか？よろしいでしょうか？

このような形で、明日、市長さんに答申をお渡ししますが、特に、オブザーバーの細川院長から答申について、ご意見がありましたらお願いします。

## 細川オブザーバー

私としては、全部適用になるということが、どういうことかを職員と市民に対して詳しく、今とどこが違うのか、どんなメリットがあるのか、できるのかの説明を十分すべきではないかと思います。後のことに関しては、問題ありません。

先程も、病院と診療所の区分けが分からない状況でもありますので、一部適用や全部適用は、一番分かりづらいところだと思いますので、詳しく丁寧に説明すべきだと思います。

## 佐古委員長

それでは、今日議論いただきました修正案どおりで、明日、答申させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

- 4 協議事項 (2) その他について、何かございますか？(なしとの声あり。)  
事務局から何かありますか？(なしとの声あり。)

## 5 その他

### ○市立芦別病院 細川院長からあいさつ

市立芦別病院を代表いたしまして、お礼のご挨拶をさせていただきます。佐古委員長をはじめ、委員の皆様におかれましては、大変ご多忙中にもかかわらず昨年2月27日の第1回目を皮切りに1年間6回の熱いご審議をいただき、誠にありがとうございました。人口減少・高齢化・医師不足・診療科不足・不良債務の増加など、厳しい病院経営でございます。さらに、9月には突如厚労省から再編・統合を必要とする公立病院の対象とされました。しかし、市立病院は地域医療の最後の砦として、芦別市民には無くてはならない病院であります。その存続を前提とした病院のあり方をご審議いただきました。明日の市長への答申を真摯に受け止め、今後も市民のための病院として、職員一同頑張っていきたいと思います。委員の皆様には、どうか今後ご指導・ご支援いただけますようお願い申し上げます。本当に、どうもありがとうございました。

### ○答申について事務局からの説明

#### 事務課長

答申につきましては、明日、9時から市長室で行います。出席者は、佐古委



員長、橋本副委員長、西村委員の3名で、受ける側は、荻原市長、稲場副市長、細川院長の3名となっています。

明日の答申を持ちまして、当委員会の委嘱期間が満了となりますが、およそ、1年間6回までご足労をいただきました。本当にありがとうございました。

○各委員からあいさつ

・ **川邊委員**

1年間の長いといえますか、6回のあり方検討委員会に出席させていただきました。ありがとうございました。私は、福祉・介護代表として、整形や内科の診療科は無いと困ると最初から申し出ておりました。その中で、診療科目を残していただけることはありがたいことだと思います。やはり、市立病院がなければ、市外の医療機関へ通えない方も現実的に居りますので、私達も努力しながら支えていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。1年間どうもありがとうございました。

・ **竹原委員**

今、市内、何処へ行っても財政の問題、行政の問題、市立病院の話が、必ず出るような状況であります。その中で、この答申は、立派な答申になっていると思っております。これを明日、市へ提出することで少しでも良い市立病院になってもらいたいと思っております。1年間どうもありがとうございました。

・ **西村委員**

市の行革委員会に関わらせていただいている関係で、この委員会の委員も引き受けることとなりまして、私自身は医療の専門家ではありませんが、1年間通じて勉強させていただきました。専門の地方財政という点からは、もしかすると、診療所化や大幅なダウンサイジングをすれば赤字は小さくなるという話になるのかもしれませんが、やはり、それでは、まちで暮らしていくことが難しくなっていく中で、どのような答えを出していくのが一番良いのかという、この1年間を通して悩みながら参加させていただきました。まだまだこれから、正念場でありますので、これから少しでも良い方向になるよう目指してやっていくことが、重要になって来ると思っておりますので、委員会としては、今日が最後ですが、引き続き見守らせていただきながら良い方向になるよう願っております。1年間どうもありがとうございました。

・ **野口委員**

昨年、隣の赤平市が9月でしたか、人口が1万人を切ったとのニュースを見て、芦別も、もうじき間もなく来るだろうと実感しながら、この委員会に出席していました。私も市内で病院をやっておりますが、私の病院も経営が

非常に厳しくなっていており、人材確保も難しく私自身も高齢化していく状況で、同期の藤嶋先生が突然お亡くなりになることを目の当たりに見て、私もそろそろ病院としての最後をどうしていいかと、私自身の終活も含めてしていかなければならない、そんな中で、やはり、頼りになるのは市立病院であるということで、今後も協力できるところは協力していきたいと、この委員会を通じて感じておりました。1年間どうもありがとうございました。

#### ・橋本副委員長

私は、この委員会に2回しか参加しておりませんので、物申す立場ではありませんが、昨日も中空知地域医療構想会議の専門部会に出席しまして、その様な会議等の場に出席する機会も増えて参りました。会議では、皆さん本音で意見を強く発言されているのを聞いて、勉強をしていなければ意見も言えませんので、今後、学んでいきたいと思えます。

市立病院なくしては、このまちの医療が、本当に困ったことになりますので、良い方向に向かうよう切に願っているところです。

#### ・佐古委員長

皆さん方、1年間本当にありがとうございました。不慣れな委員長の下で皆さん方に助けていただき、何とか答申をまとめることができ、責任を果たしたということで大変嬉しく思っています。

私も市立病院（名寄市立総合病院）の院長経験者ですので、細川院長先生の気持ちは良く分かります。その中で、いろいろな失礼なこともいくつか発言したかと思いますが、私はやはり、住民の皆さんが市立病院をいかに頼りにしているかということは十分わかりますし、そのためには、やはり存続しなければいけない。その存続するために、できるだけ少しでもお役に立てればということで、いろいろと申し上げたのでお許しいただきたいと思えます。

ただ、先程も申し上げましたが、これで終わりではありません。これが、スタートでありますので、ここから今までの議論の中で、答申には入っておりませんが、いろいろな議論があったと思えます。議事録をご覧いただければお分かりいただけますが、そういう点を皆さん方で情報を共有して、常に周りの変化に対応していかなければいけないと思えますので、これから大変でしょうけども、是非、頑張ってくださいたいと。それで、市立芦別病院が少し経営も良くなり、その様なニュースを1年後に聞けたら、ここにいる皆さん方も本当にうれしく思えますので、細川院長、是非、よろしく願います。以上でございます。ありがとうございます。

## 6 閉 会

以 上

**(午後6時30分終了)**